

「新入社員の意識」調査

調査結果のポイント

- 会社選びで最も重視するものは「仕事の内容」がトップ。過去 15 年間で最高水準。
- 前年に続き、会社とは「社会貢献の場」がトップ。女性は約 4 割が回答。
- 職場生活における不安は「仕事面」がトップ。
- 一つの企業で長く勤めたいと考える新入社員は約 7 割。
- 男性では 15 年ぶりに「成果主義」が「年功主義」を上回る。
- 理想の上司は「気配り型」が約 7 割へと増加。過去 15 年間で最高水準。
- 結婚したい人の平均希望年齢は **26.6 歳**、希望する子ども数の平均は **1.74 人**。

調査要領

1. 調査目的 2021 年度新入社員の意識動向の把握
2. 調査対象 岐阜・愛知両県内企業の新入社員
3. 調査時期 2021 年 4 月
4. 調査方法 無記名式アンケート
5. 有効回答者数 416 名 (内訳は下表のとおり) ※ 例年は「じゅうろく新入社員セミナー」に参加した約 700 名を対象としていたが、前年度よりオンラインセミナーに切り替えたため、回答者数が異なる。

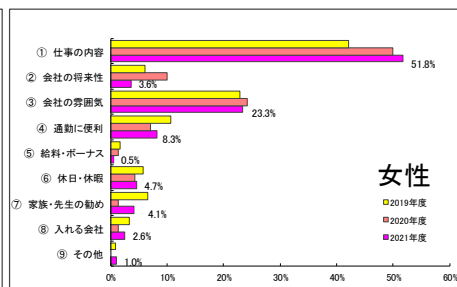
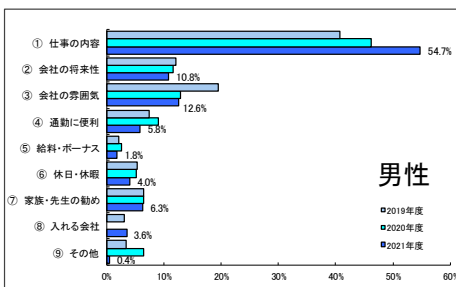
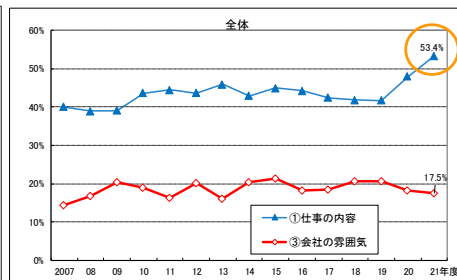
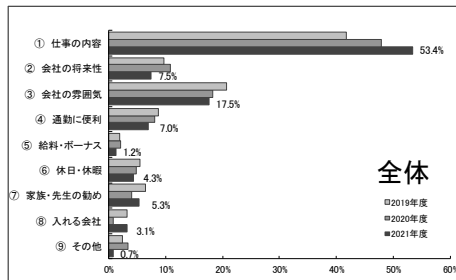
最終学歴	男 性		女 性		合 計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
大学以上	125	56.1%	99	51.3%	224	53.8%
短大・高専	3	1.3%	13	6.7%	16	3.8%
専門学校	18	8.1%	13	6.7%	31	7.5%
中・高校	77	34.5%	68	35.2%	145	34.9%
合計	223	53.6%	193	46.4%	416	100.0%

(注) 本文中の図表の計数は、単位未満を四捨五入している関係で、内訳の合計等が合致しない場合がある。
また、無回答等により合計が合致しない場合がある。

1. 今の会社を選ぶ際に最も重視したもの

(選択肢)

- ① 仕事の内容に興味があり、自分の能力を活かせると思うから
- ② 会社に将来性がありそうだから
- ③ 経営者の人柄、職場の雰囲気などが良いから
- ④ 通勤に便利などところにあるから
- ⑤ 給料、ボーナスが良いから
- ⑥ 休日、休暇が多いから
- ⑦ 家族や親戚、学校の先生に勧められたから
- ⑧ 希望する会社ではないが、入れる会社だったから
- ⑨ その他



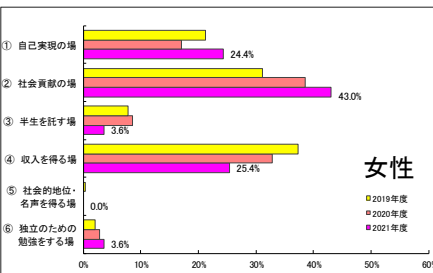
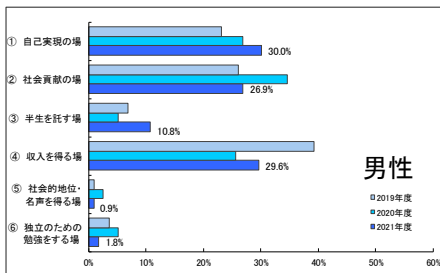
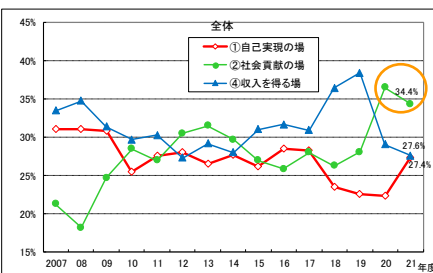
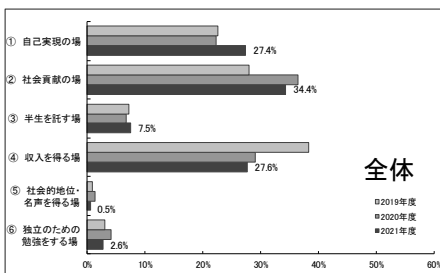
「仕事の内容」を重視する新入社員が増加

会社を選ぶ際に最も重視したことは、「①仕事の内容」が53.4%（前年比5.4%増）でトップ、2位は「③会社の雰囲気」の17.5%（同0.7%減）、3位は「②会社の将来性」の7.5%（同3.4%減）であった。前年比増加したのは、「①仕事の内容」「⑧入れる会社だった」等であり、減少したのは、「②会社の将来性」「④通勤に便利」等であった。「①仕事の内容」については大きく増加し、過去15年間で最も高い水準に、一方で「②会社の将来性」は最も低い水準となった。

2. 会社とはどんなところか

(選択肢)

- ① 自己の個性や能力を活かし伸ばすところ
- ② 社会に役立つことを実践するところ
- ③ 自分の半生を託すところ
- ④ 収入を得るところ
- ⑤ 社会的地位や名声を得るところ
- ⑥ 将来何らかの形で独立したいので、その勉強をするところ



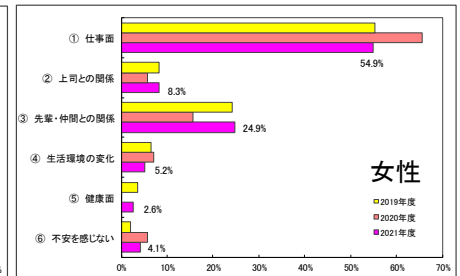
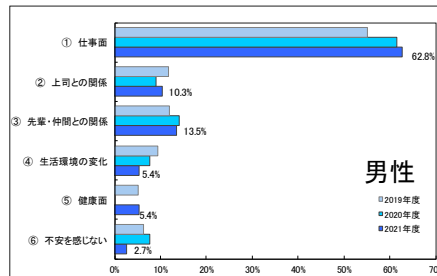
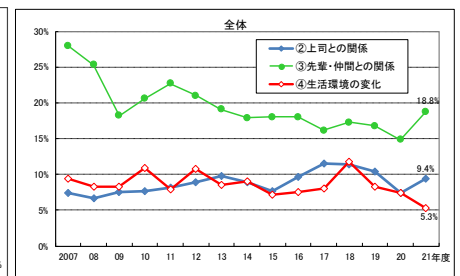
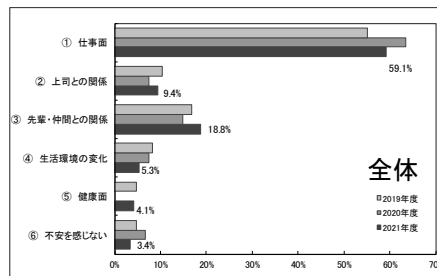
前年に続き「社会貢献の場」が最多

会社とはどのようなところかという問いでは、「②社会貢献の場」が 34.4%（前年比 2.1 ㊦減）でトップ、次いで「④収入を得る場」が 27.6%（同 1.4 ㊦減）、「①自己実現の場」が 27.4%（同 5.1 ㊦増）となった。「②社会貢献の場」と答えた割合の男女別の内訳をみると、男性が 26.9%（同 7.7 ㊦減）、女性が 43.0%（同 4.4 ㊦増）と女性が男性を大きく上回る結果となった。

3. 職場生活における不安

（選択肢）

- ① 仕事がうまくやれるか
- ② 上司とうまくやれるか
- ③ 先輩・仲間とうまくやれるか
- ④ 生活環境が変わること
- ⑤ 健康について
- ⑥ 不安を感じない



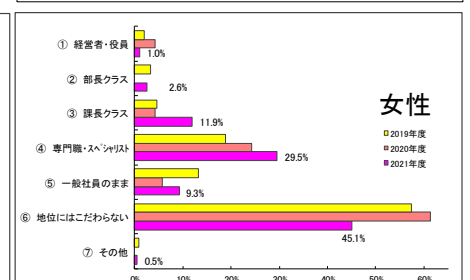
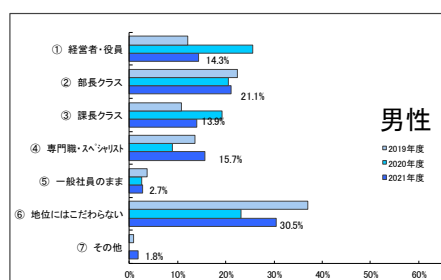
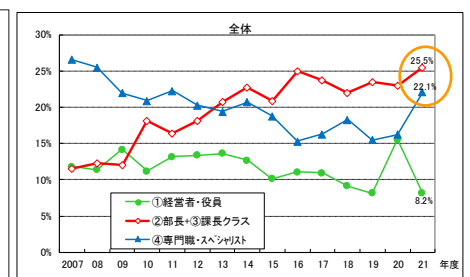
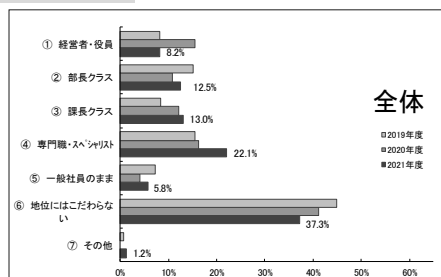
「仕事面」がトップ。人間関係の不安が強まる

職場生活における不安についての問いのトップは例年同様「①仕事面」となり、59.1%（前年比 4.4 ㊦減）となった。「③先輩・仲間との関係」は 18.8%（同 3.9 ㊦増）、「②上司との関係」は 9.4%（同 1.9 ㊦増）となり、人間関係の不安は前年に比べて強まっているとみられる。一方、「④生活環境の変化」は 5.3%（同 2.1 ㊦減）と和らぎ、過去 15 年間で最も低い水準となった。

4. 昇進や出世について、目指す地位

（選択肢）

- ① 経営者・役員
- ② 部長クラス
- ③ 課長（支店長、営業所長）クラス
- ④ 専門職・スペシャリスト
- ⑤ 一般社員のまま
- ⑥ 地位にはこだわらない
- ⑦ その他



「専門家・スペシャリスト」の割合が増加

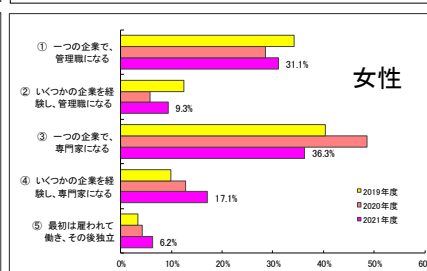
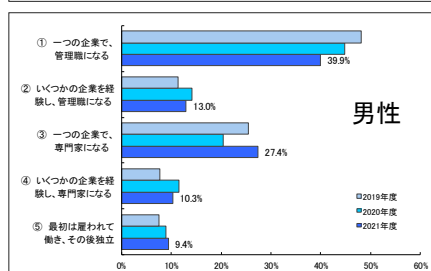
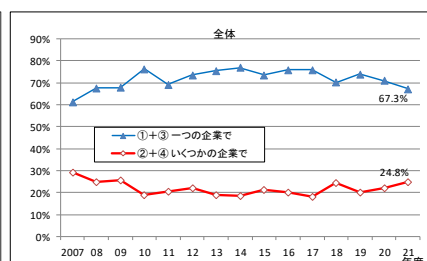
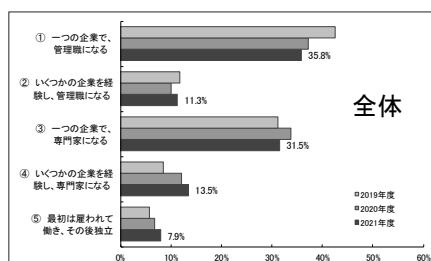
昇進や出世については、「⑥地位にはこだわらない」が37.3%（前年比4.0ポイント増）でトップ、次いで「④専門職・スペシャリスト」が22.1%（同5.9ポイント増）となった。

「①経営者・役員」は8.2%（同7.4ポイント減）と減少する一方で、「②部長」と「③課長」クラスを合わせた管理職の割合は25.5%（同2.5ポイント増）と増加した。また、女性については「④専門職・スペシャリスト」が29.5%（同5.2ポイント増）と、過去15年間で最も高い水準となる一方、「⑥地位にはこだわらない」が45.1%（前年比16.4ポイント減）と、最も低い結果となった。

5. 望ましいと思う職業パターン

(選択肢)

- ① 一つの企業に長く勤め、だんだん管理職になっていくコース
- ② いくつかの企業を経験し、だんだん管理職になっていくコース
- ③ 一つの企業に長く勤め、ある仕事の専門家になるコース
- ④ いくつかの企業を経験し、ある仕事の専門家になるコース
- ⑤ 最初は雇われて働き、その後独立するコース



約7割が「一つの企業で長く働きたい」

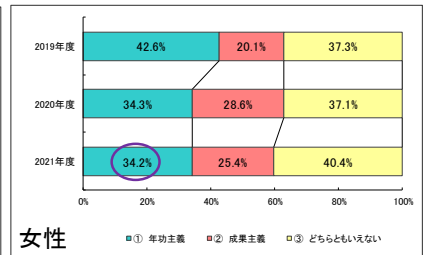
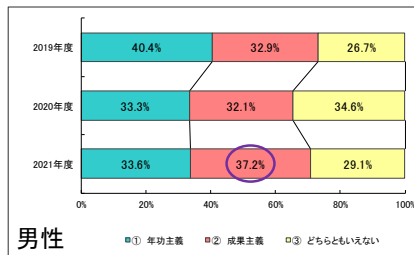
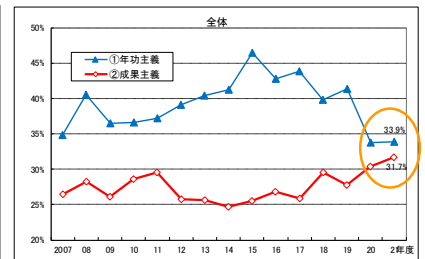
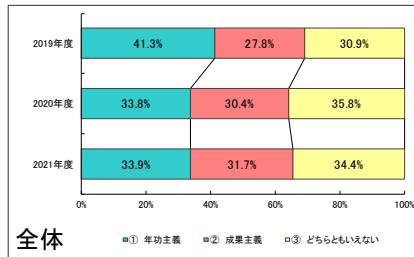
望ましいと思う職業パターンについては、「①一つの企業で管理職に」が35.8%（前年比1.3ポイント増）でトップ、2位は「③一つの企業で専門家に」で31.5%（同2.3ポイント増）となった。これらを合わせた、「一つの企業で長く働きたい」と考える新入社員は67.3%に上った。この傾向は、過去15年間で大きな変化はない。

また、管理職志向※1が47.1%、専門家志向※2が45.0%と、同程度となった。

6. 望ましいと思う昇給パターン

(選択肢)

- ① 仕事の達成度や成果が給料にあまり反映されないが、年齢や勤続年数に応じた昇給がある
- ② 仕事の達成度や成果が給料に大きく反映されるが、年齢や勤続年数に応じた昇給はない
- ③ どちらともいえない



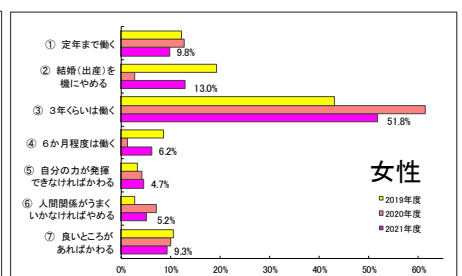
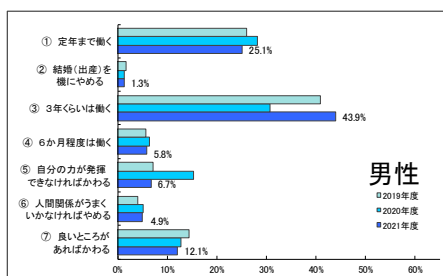
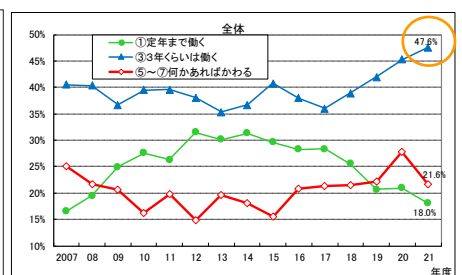
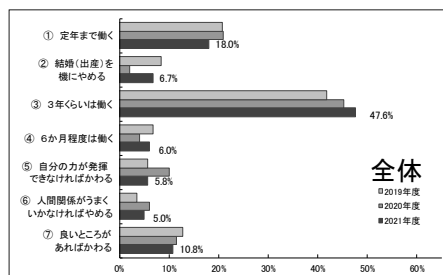
「年功主義」と「成果主義」の割合が拮抗

希望する昇給パターンは、「①年功主義」が 33.9% (前年比 0.1 ㊦増)、「②成果主義」が 31.7% (同 1.3 ㊦増) と、前年に続き拮抗する結果となった。男性では「②成果主義」が 37.2% (同 5.2 ㊦増) と増加し、15年ぶりに「①年功主義」を上回った。

7. 今の会社が考えていた職場と違ったらどうするか

(選択肢)

- ① 入社した以上、定年まで続けて働く
- ② 結婚(出産)を機会に会社をやめる
- ③ 3年くらいは一所懸命働く
- ④ 6か月程度様子を見てから決める
- ⑤ 自分の力が発揮できなければわかる
- ⑥ 人間関係がうまくいかなければやめる
- ⑦ 良いところがあれば、そちらにかわる



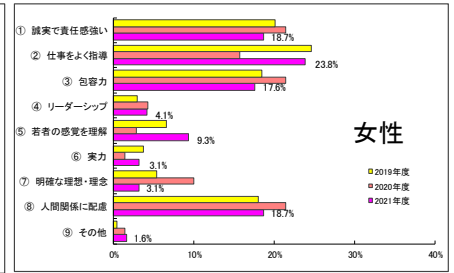
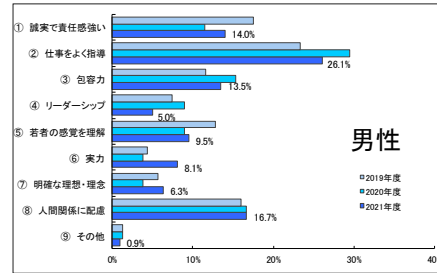
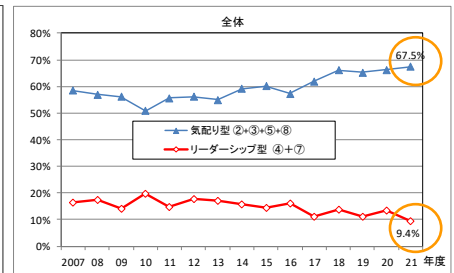
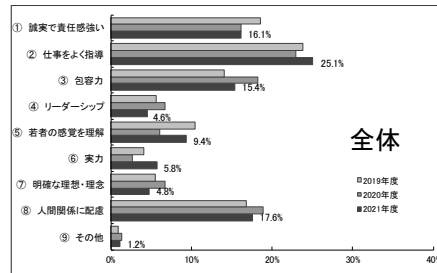
「3年は働く」割合が増加

入社前に描いていた職場のイメージと、実際の職場が違った場合の対応としては、「③3年は働く」が 47.6% (前年比 2.3 ㊦増) でトップとなり、過去 15年間で最も高い水準となった。次いで「①定年まで働く」が 18.0% (同 2.9 ㊦減)、「⑦良いところがあれば変わる」が 10.8% (同 0.7 ㊦減) となった。

8. あなたにとって「理想の上司」とはどんな人ですか

(選択肢)

- ① 誠実で責任感の強い人
- ② 仕事をよく指導してくれる人
- ③ 包容力のある人
- ④ リーダーシップのある人
- ⑤ 若者の感覚を理解できる人
- ⑥ 実力のある人
- ⑦ 明確な理想・理念を持った人
- ⑧ 人間関係に配慮してくれる人
- ⑨ その他



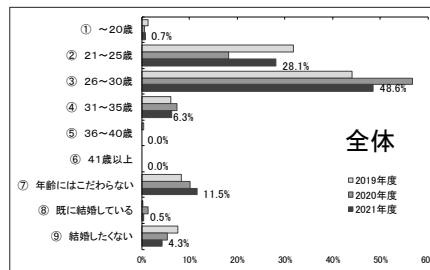
「気配り型」が増加

「理想の上司」は回答の多い順に「②仕事をよく指導してくれる人」25.1% (前年比 2.1 ㊦増)、「⑧人間関係に配慮してくれる人」17.6% (同 1.3 ㊦減)、「①誠実で責任感が強い」16.1% (同 0.1 ㊦減)、「③包容力のある人」15.4% (同 2.8 ㊦減) となった。気配り型※3の上司の人気は過去 15 年間で最も高く、リーダーシップ型※4の上司は 1 割を下回り、最も低い結果となった。

9. 結婚したい年齢

(選択肢)

- ① ～20歳
- ② 21～25歳
- ③ 26～30歳
- ④ 31～35歳
- ⑤ 36～40歳
- ⑥ 41歳以上
- ⑦ 年齢にはこだわらない
- ⑧ 既に結婚している
- ⑨ 結婚したくない

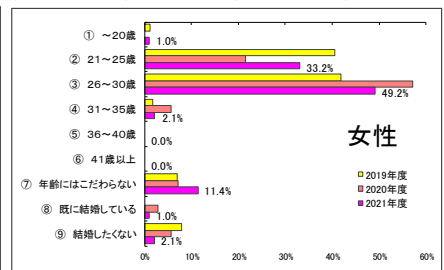
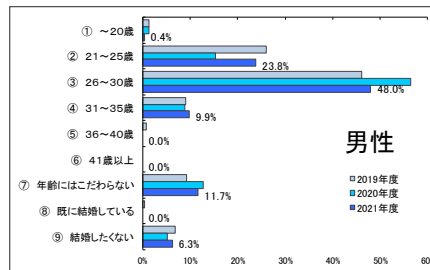


平均結婚希望年齢の推移

単位:歳

調査年度	全体	男性	女性
2021	26.6	27.1	26.1
2020	27.3	27.5	27.1
2019	26.6	27.1	26.1
2018	26.8	27.3	26.2
2017	26.9	27.4	26.3
2016	26.7	27.1	26.2
2015	26.6	27.1	25.8
2010	26.4	26.8	25.9
2009	26.4	27.1	25.6
2008	26.2	26.9	25.5
2007	26.1	26.8	25.4

(注)2011年～2014年は調査を行っていない。



男女ともに「26～30歳」が最多

結婚希望年齢は、「③26～30歳」48.6% (前年比 8.2 ㊦減)、「②21～25歳」28.1% (同 9.9 ㊦増)、「⑦年齢にはこだわらない」11.5% (同 1.4 ㊦増) の順となった。平均結婚希望年齢は、男性が 27.1 歳、女性が 26.1 歳、全体で 26.6 歳と、例年とほぼ同水準となった。

※3 気配り型…「②仕事をよく指導してくれる人」「③包容力のある人」

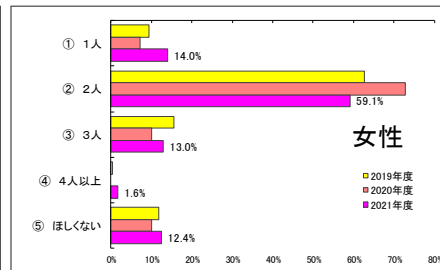
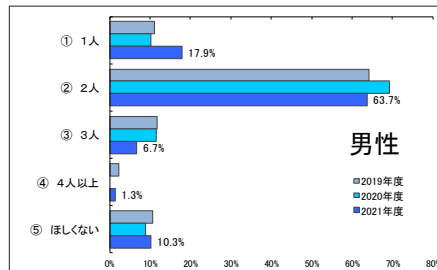
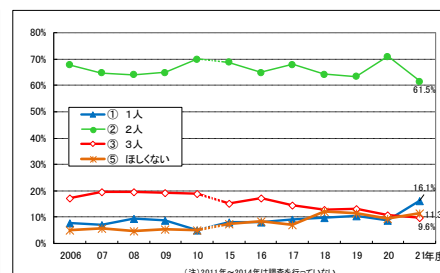
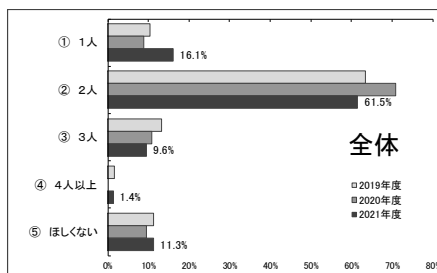
「⑤若者の感覚を理解できる人」「⑧人間関係に配慮してくれる人」の合計

※4 リーダーシップ型…「④リーダーシップのある人」「⑦明確な理想・理念を持った人」の合計

10. 子どもは何人ほしいか

(選択肢)

- ① 1人
- ② 2人
- ③ 3人
- ④ 4人以上
- ⑤ ほしくない



平均希望子ども数は、1.74人へ減少

希望する子どもの数は、「②2人」が61.5%（前年比9.4%増）でトップ、次いで「①1人」が16.1%（同7.3%増）、「⑤ほしくない」が11.3%（同1.8%増）となった。「①1人」については、男性17.9%（同7.7%増）、女性14.0%（同6.8%増）と倍増し、いずれも過去15年間で最も高くなった。

平均希望子ども数は全体で1.74人となり、過去15年間で最も少ない結果となった。日本の2019年の合計特殊出生率（1人の女性が生涯に産むと推計される子どもの数）は1.36と、1995年以降1.50を下回る水準が続いている。人口維持には2.07が必要と言われており、本調査結果のような傾向が強まれば、人口減少と高齢化がさらに加速しかねない。

平均希望子ども数の推移

単位:人

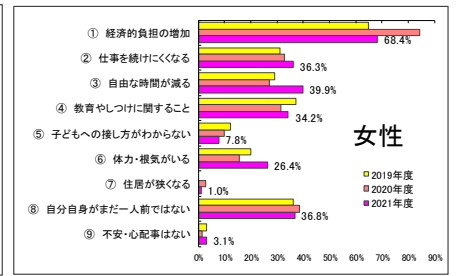
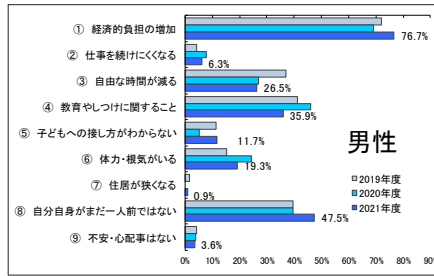
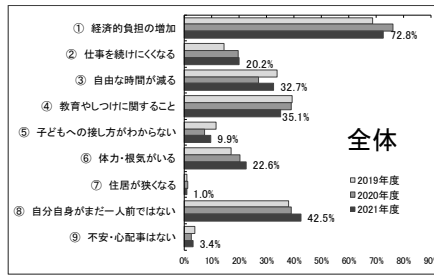
調査年度	全体	男性	女性
2021	1.74	1.71	1.77
2020	1.83	1.83	1.83
2019	1.84	1.84	1.83
2018	1.80	1.79	1.82
2017	1.94	1.92	1.97
2016	1.94	1.97	1.91
2015	1.94	1.92	1.98
2010	2.06	2.04	2.07
2009	2.03	2.01	2.05
2008	2.06	2.07	2.04
2007	2.06	2.05	2.06

(注)2011年～2014年は調査を行っていない。

11. 子どもを持つことへの不安・心配事

(選択肢)

- ① 経済的負担の増加
- ② 仕事を続けにくくなる
- ③ 自由な時間が減る
- ④ 教育やしつけに関すること
- ⑤ 子どもへの接し方がわからない
- ⑥ 体力・根気がいる
- ⑦ 住居が狭くなる
- ⑧ 自分自身がまだ一人前ではない
- ⑨ 不安・心配事はない



トップは「経済的負担の増加」

子どもを持つことへの不安・心配事について、最大3つまで選択してもらったところ、回答が多い順から「①経済的負担の増加」72.8%（前年比3.5%増減）、「⑧自分自身がまだ一人前ではない」42.5%（同3.4%増）、「④教育やしつけに関すること」35.1%（同4.1%増減）、「③自由な時間が減る」32.7%（同5.7%増）となった。

子どもの希望有無で比較すると、子どもが欲しい層で高い項目は、男性では「⑧自分自身がまだ一人前ではない」「⑥体力・根気がいる」、女性では「①経済的負担の増加」「②仕事を続けにくくなる」となった。子どもが欲しくない層では、子どもが欲しい層と比べ、男女ともに「③自由な時間が減る」の割合が高く、女性では「⑤子どもへの接し方がわからない」の割合が高い。自分の暮らしを大切にしたい姿や、未体験のことへの不安などがうかがえた。

	男性		女性	
	子どもは欲しい(n=200)	子どもは欲しくない(n=23)	子どもは欲しい(n=169)	子どもは欲しくない(n=24)
① 経済的負担の増加	77.0%	73.9%	71.0%	50.0%
② 仕事を続けにくくなる	6.0%	8.7%	38.5%	20.8%
③ 自由な時間が減る	25.5%	34.8%	37.3%	58.3%
④ 教育やしつけに関すること	36.0%	34.8%	34.9%	29.2%
⑤ 子どもへの接し方がわからない	11.5%	13.0%	5.9%	20.8%
⑥ 体力・根気がいる	20.5%	8.7%	27.2%	20.8%
⑦ 住居が狭くなる	1.0%	0.0%	0.6%	4.2%
⑧ 自分自身がまだ一人前ではない	48.5%	39.1%	36.7%	37.5%
⑨ 不安・心配事はない	3.5%	4.3%	3.6%	0.0%

(研究員 高木 安希子)